

防火態勢は万全 46年度消防団通常点検終る

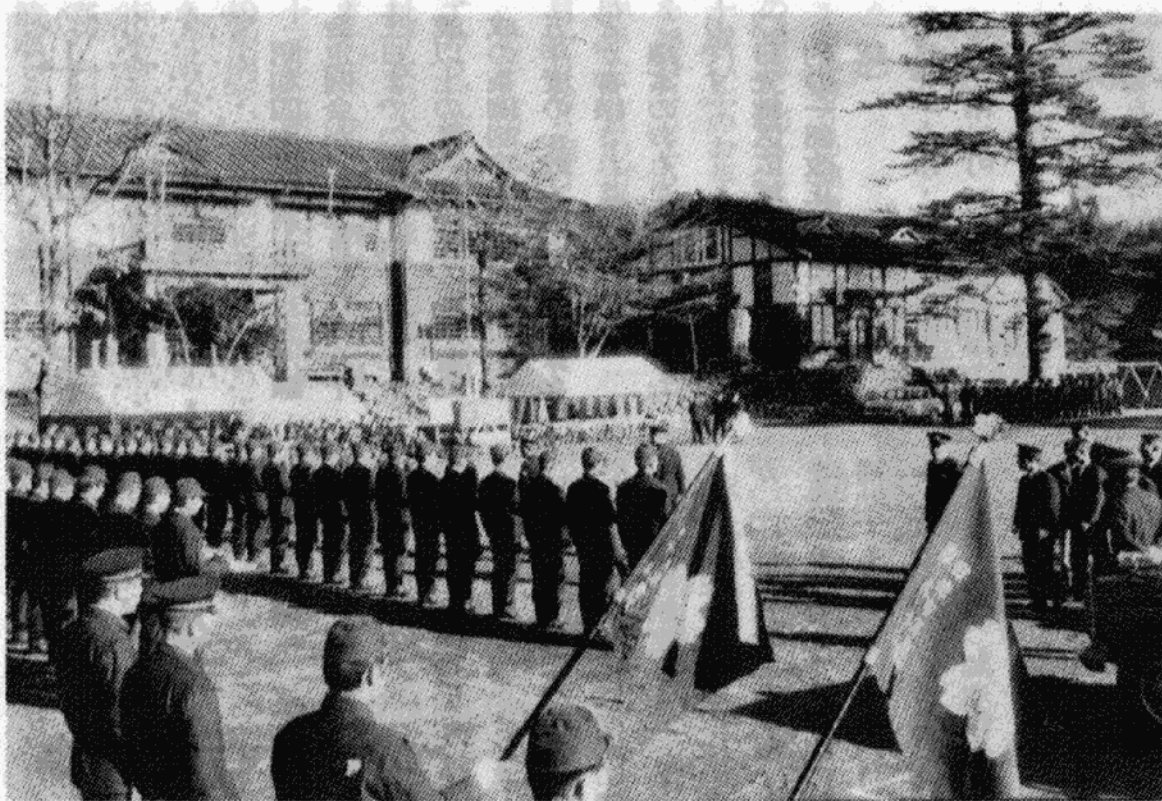
昭和四十六年度の市消防団通常点検が、十二月二日、日光小学校校庭で行なわれました。

この点検は、例年一月始めに行なっていました。今年は一

月六日から冬季国体が開かれるため、一か月早く行なつたもので、この日は市内の消防団員二百二十名のほか、市消防署員

と約三百名が参加し、機械器具の点検、ポンプ操法の模範訓練や消防車の放水点検など、市民の生命と財産の安全を守るにふさわしい、きびきびした点検が行なわれました。

なお、この日の式場で次のかたがたが、消防活動の功労者として表彰されました。(敬称略)



団旗も堂々と、点検を受ける消防団員

カッコ内は所属分団)

〔栃木県消防協会長表彰〕

▽優良分団員 宮田庄吾(1)

〔栃木県消防協会長・日光市消防長表彰〕

▽永年勤続者 山本忠一郎(

団本部)、星野与次郎(8)、福田耕一(1)、長島勇(4)、上尾政雄(8)

福田隆(4)、神山常治(8)、今井博

(4)、斎藤輝雄(5)、加藤寅吉(4)、

谷田貝年男(9)、石川道義(3)、飯

見千代治(5)、小野博(5)、手塚博

忠(6)、手塚貞治(6)、矢野宏光(6)

松村宗夫(8)、星野久(8)、藤沢国

一郎(8)、小又邦夫(9)、大藤山造

(9)。

〔上都賀支部長・日光市消防長

表彰〕

▽優良消防団員 根本英三郎

(2)、伴孝行(6)、岡本稔(5)、竹沢

英一(9)、佐藤旭(10)

〔上都賀支部長表彰〕

▽永年勤続者 福田隆司(1)、

相ヶ瀬雄平(2)、寺村紀元(2)、松

島幹教(9)

〔日光市消防長感謝状〕

▽火災早期発見者 桑川光子

(稲荷二)、福田哲蔵(清滝四)

相馬秀雄(安良沢) ▽消火協

力者 大橋貞子(稲荷二) ▽人

命救助者 佐藤昭一(所野)

市史編さんさま

一月の市史

市民の皆さん、明けましておめでとうございます。

「市史編さん室だより」も今回で二十四回目、ちょうど二年間続いたわけですが、今年

は郷土の歴史の中で、本紙の発行月に起きたことがらを

取り上げていきます。引き続きご愛読をお願いします。

一月に起きた

江戸時代の大火

今も昔も変わりなく、一月は火災の多い月で、江戸時代にも一月に次のような大きな火災が起きています。

▽寛永十五年(三三三四年前)

一月二十七日、馬町(旧四軒町)より失火、西町中大火。

▽承応三年(三一八年前)

一月七日、本坊(満願寺)焼失

▽寛文八年(三〇四年前)

一月二十九日、久次良村大火

▽延宝二年(二九八年前)

一月十五日、稲荷町大火、九

〇戸焼失す。

▽延宝八年(二九二年前)

一月二十五日、松原町大火、

三八戸焼失す。

植田孟縉氏によって書かれたものですが、おそらく今日までの日光史の歴史書としては第一に位するものでしょう。

日光史をひもとくうえにも、貴重な文献となっています。

鉢石学舎(小学校)の開設

明治七年一月

江戸時代の寺小屋教育は日光山に行なわれていました

が、幕末に日光学問所ができこれが唯心院学校となり明治四年まで続きました。

明治五年、学制令頒布によって、わが国の教育制度が確立したわけですが、日光では

明治七年一月に、現在の日光小学校の前身である鉢石学舎が

中鉢石町の観音寺に開設され、同時に細尾・清滝・所野・七里・浄光寺・竜蔵寺の六か所に分教場が開かれ、僧侶が教師となりました。

天保八年(一三三五年前)の一月に刊行された「日光山志」は

八王子千人同心の組頭であった



浄光寺境内にある防火隊(日光火之番)碑。日光市文化財に指定されています。